

海賊の自由：米がイランのタンカーを襲う外注先を求めている

【訳者注】ニセの海上連盟を作って、外国の船にイランのタンカーを襲わせることは、地上では、イスラム主義テロリストを使って、外国の市民を襲わせる作戦に相当するだろう。しかし同盟国とはいえ、かつての大英帝国が犬のようにアメリカに従うとは、何を意味するか？ 私は、これは大英帝国そのものが、「アメリカ例外主義」と同様、その本質は「犬畜生」だったことを意味すると思う。今、そういう見方が十分に可能になった。またそう考えるべきである。アンドレ・ヴルチェクの先日の記事の観点、他の文化の犠牲の上に、地上に最高の文化を築いたと考えている西洋人に対して、「畜生ども (Damn it!)」と言う観点がなければ、本当にこの地球を改革することはできないと思う。

RT (Russian Today)

July 9, 2019



米、仏、デンマークの船が紅海をパトロールしている、2019年4月／米海軍マスコミ・スペシャリスト船員 Joshua L. Leonard

ワシントンは、進行中の対テヘラン作戦において、ある新しい戦略を立てている。これは、

海軍のイラン封じ作戦を外注して、国際海域におけるイランのオイル・タンカーを、同盟者に捕獲させることで、もちろん、すべて「航海の自由」の名においてである。

ワシントンによるその最新のものは、アメリカは現在、「同志」を糾合しつつあり、それによって「ホルムズと、バブ・アルマンデブの両海峡で、航海の自由を確保する」ことができるのだと、参謀長のジョセフ・ダンフォード将軍は、火曜日に語った。これらはそれぞれ、ペルシャ湾をオマーン湾に、紅海をアデン湾に、つなぐ水路になっている。

アメリカは「多くの国」と接触しており、どの国が、この計画を支持する意志をもっているかがわかる、とこの海軍提督は話した。

しかし、合法的な警察の計画は、国連に訴えれば簡単に可能なはずで、アメリカが 2003 年に不法にイラクを侵略するのに使った、「有志連合」の二番煎じなど必要ではない。イラク自身が、本当に国際的な安全保障の努力を、歓迎したことがないのは言うまでもないが。

推測だが、これらの国家のうち 2 つは、彼らの最近のイランのオイル輸送船の拿捕から考えて、イギリスとエジプトではなからうか？ 先週、ジブラルタル海峡で、パナマ船籍の Grace 1 に英兵が乗り込んだことは、よく知られている。しかし、それより何日前、エジプトの海兵隊が、スエズ運河でウクライナ船籍の船を拿捕している。テヘランはエジプトのその行動については黙っているが、その高官たちは、Grace 1 の捕獲を「純粋で単純な海賊行為」だとして非難し、このような行動は恐ろしい先例になる、直ちに停止せよ、と言っている。

イギリスは最大のアメリカの同盟国であり、その海軍は、かつての大英帝国の影にすぎないが、武器をもたない貨物船を拘束することぐらいはできるようだ。イギリスは、ワシントンの猫の爪として働くより、まず自分の仕事に取り組むこと、つまり Brexit の次の首相を誰にするか考えてもよさそうなのに、英首相官邸の頭が狂ったのは、これが初めてではない。

しかし、ジブラルタル海峡の拿捕については、有力な以前の EU 高官たちでさえ頭を抱えている。なぜならイギリスは、正しくは今も、テヘランとの 2015 年核取引の当事者であり、一方的に押し付けられたアメリカの制裁に、縛られてはいけないからである。

公的なイギリスの説明は、ジブラルタルの法律では「国連、EU および英国の制裁」の警察力が許されていると言い、Grace 1 拿捕の 1 日前に適用された規制があると言っている。

テヘランはこれを認めず、イギリスの言い訳は「勝手に作ったもの」だと非難している。イ

ラン軍の参謀長である Mohammad Bagheri 将軍は、特定はしないが、ある「相応の返答」をすると約束している。

RT 関連情報:「英国が拿捕した船を釈放しない場合、英国タンカーを拘束するのはイランの“義務”——イスラム革命防衛隊幹部」

<https://www.rt.com/news/463435-iran-reaction-tanker-uk/>

ペルシャ湾のイギリスの貨物船が警告を受けた。BP の操船するタンカー British Heritage はイラクのバスラに向っていたが、7月6日、ペルシャ湾で突然 U ターンした。それは今、イランの報復を恐れてサウジアラビア沿岸に停泊している、と Bloomberg は匿名のソースを引用して伝えている。

もう一つ別のイギリスのタンカー Pacific Voyager は、月曜日、Fujairah の UAE 港に向かう途中、明らかに、英国フリゲート艦 Montrose に護衛されていた。

忘れてならないことは、ワシントンが、オマーン湾の2隻のオイル・タンカーへの謎の攻撃の背後に、イランがあると非難し、また先月、ペルシャ湾の2隻の船舶についても同様の攻撃をしたことである。テヘランはこれらの非難を否定し、自国の船を破壊された諸国も同様に納得していない。

ペンタゴンの、テヘランに対して「地球的コンセンサスを取り付ける」という通告は、イランの米スパイ・ドローンの撃墜による憤激のあまり、ほとんど気づかれなかった。これは確実に戦争の引き金になるかと思われたが、米大統領ドナルド・トランプは、イランの死傷者を懸念して、計画されていた攻撃を中止させた。

しかし、最近のタンカーへの海賊行為や、海上同盟の呼びかけが示唆するものは、その「コンセンサス」は巧妙に作られたもので、イランとの戦争は時間の問題だということである。

——Nebojsac Malic